

# Job

## Chapter 3

Japanese Interlinear

Reference: Japanese Kougo-yaku (1954/1955)

פְּאֲחֵרֶי-כֵן פָּתַח אִיּוֹב אֶת-פִּי וַיִּקְלַל אֶת-יְהוָה יוֹמָיו: 1  
— 自身の-日を — 呪った 口を — ヨブは 開いた それから その-後  
[H3117](#) [H0853](#) [H7043](#) [H6310](#) [H0853](#) [H0347](#)

この後、ヨブは口を開いて、自分の生れた日をのろった。

וַיַּעַן אִיּוֹב וַיֹּאמֶר: 2  
言った ヨブは 答えた  
[H0559](#) [H0347](#)

すなわちヨブは言った、

וַיֹּאבֵד יוֹם הַיּוֹם אֲנִי לְבָרָא בְּיוֹם הַלַּיְלָה וְהַלַּיְלָה אָמַר תְּהָרָה נָכְרִי: 3  
男が-と 身ごもった 言った また-夜が その-日が 生まれた 日が 滅びるがよい  
[H1397](#) [H2029](#) [H0559](#) [H3915](#) [H3205](#) [H3117](#) [H0006](#)

「わたしの生れた日は滅びうせよ。『男の子が、胎にやどった』と云った夜もそのようになれ。

הַיּוֹם הַהוּא יִהְיֶה חֹשֶׁךְ אֶל-יְדֵרְשֶׁהוּ אֱלֹהֵי מִמַּעַל וְאֶל-תּוֹפֵעַ עָלָיו 4  
その-日よ 其の 闇に なれ その 尋ねるな 神が 上から 輝くな 輝くな 其の-上に  
[H3313](#) [H0408](#) [H4605](#) [H0433](#) [H1875](#) [H0408](#) [H2822](#) [H1961](#) [H1931](#) [H3117](#)

וְהָרָה: 5  
光が  
[H5105](#)

その日は暗くなるように。神が上からこれを顧みられないように。光がこれを照さないように。

וַיִּגְאָלֶהוּ חֹשֶׁךְ וַצְלֻמוֹת תִּשְׁכַּן עָלָיו עֲנָנָה וְיִבְעָתֶהוּ כְמַרְרֵי יוֹם: 6  
死の-陰が 闇と 賈い-取れ 住まわしめよ その-上に 雲が おびやかせ 暗さが 日の-ように  
[H3117](#) [H3650](#) [H1204](#) [H6053](#) [H7931](#) [H6757](#) [H2822](#)

やみと暗黒がこれを取りもどすように。雲が、その上にとどまるように。日を暗くする者が、これを脅かすように。

הַלַּיְלָה הַהוּא יִקָּחֶהוּ אֶפְלָא אֶל-יַחַד בְּיָמֵי שָׁנָה בְּמִסְפַּר יְרָחַיִם 6  
その-夜を 捕らえよ 暗黒が なるな 加わるな 日々の-中に 年の 数の-中に 月の  
[H3947](#) [H1931](#) [H0652](#) [H0408](#) [H2302](#) [H3117](#) [H8141](#) [H4557](#) [H3391](#)

אֶל-יָבֵא: 7  
入るな それは  
[H0935](#) [H0408](#)

その夜は、暗やみが、これを捕えるように。年の日のうちに加わらないように。月の数にもはいらぬように。

הֲנֵה הַלַּיְלָה הַהוּא יִהְיֶה נִלְמוּד יְהִי אֶל-תִּבְאָ רִנְנָה בּוֹ: 8  
見よ 其の-夜よ 其の 不毛に 入るな 入るな 喜びの-声が 其の-中に  
[H1961](#) [H1931](#) [H3915](#) [H1565](#) [H0408](#) [H0935](#) [H7445](#)

また、その夜は、はらむことのないように。喜びの聲がそのうちに聞かれぬように。

וַיִּקְבְּהוּ אַרְרֵי-יּוֹם הָעֵתִידִים עָרַר לְוִיָּטָן: 9  
日を 日-を-呪う-者が 備えた-者よ 呑び起こせ レヴィアタンを 呪え  
[H3117](#) [H0779](#) [H6264](#) [H5782](#) [H3882](#)

日をのろう者が、これをのろうように。レビヤタンを奮い起すに巧みな者が、これをのろうように。

יְחַשְׁכוּ כּוֹכְבֵי שָׁמַיִם וְשֶׁשׁוּ יָקוּ לְאוֹר וְאֵין וְאֵל- יִרְאֶה בְּעַפְעָפִי- שָׁחַר: 9  
曙の まぶたを 見るな 見るな しかし-ない 光を 待て その-黄昏の 星が 暗くなれ  
[H7837](#) [H6079](#) [H7200](#) [H0408](#) [H0369](#) [H0216](#) [H5399](#) [H3556](#) [H2821](#)

その明けの星は暗くなるように。光を望んでも、得られないように。また、あけぼののまぶたを見ることのないように。

כִּי לֹא סָגַר דְלַתִּי בְטֵנִי וַיִּסְתֶּר עָמְלִי מֵעֵינַי: 10  
私の-目から 苦しみを 隠した 胎の 扉を 閉じることが なかった なぜなら  
[H5999](#) [H5641](#) [H0990](#) [H5462](#) [H3808](#)

これは、わたしの母の胎の戸を閉じず、また悩みをわたしの目に隠さなかったからである。

לָמָּה לֹא מָרַחַם לְאִמִּי מִבֶּטֶן וַיֵּצֵאתִי אִמּוֹת מִבֶּטֶן וַיִּנְגַּע: 11  
息絶えることが 出て 胎から 死ぬことが 胎から なかったのか なぜ  
[H1478](#) [H3318](#) [H0990](#) [H4191](#) [H7358](#) [H3808](#) [H4100](#)

なにゆえ、わたしは胎から出て、死ななかったのか。腹から出たとき息が絶えなかったのか。

מִדּוּעַ קָרַמְוִי בְרָכִים וּמָה- שְׁרִים כִּי אֵינִק: 12  
飲むための あったのか 乳が また-なぜ ひざが 迎えたのか なぜ  
[H3243](#) [H4100](#) [H1290](#) [H6923](#) [H4069](#)

なにゆえ、ひざが、わたしを受けたのか。なにゆえ、乳ぶさがあって、わたしはそれを吸ったのか。

כִּי- עַתָּה שָׁכַבְתִּי וְאֶשְׁקֹט וְאִן יָנַח לִי: 13  
私には 休めたのに そうすれば 眠って 静かに-していたのに 横たわって 今 なぜなら-今  
[H5117](#) [H3462](#) [H8252](#) [H7901](#) [H6258](#)

そうしなかったならば、わたしは伏して休み、眠ったであろう。そうすればわたしは安んじており、

עַם- מְלָכִים וַיַּעֲצֵי אֶרֶץ הַבְּנוֹי חָרְבוֹת לְמוֹ: 14  
自分のために 廃墟を 建てた-者よ 地の 謀臣と 王たちと 共に  
[H2723](#) [H1129](#) [H0776](#) [H3289](#) [H4428](#)

自分のために荒れ跡を築き直した地の王たち、参議たち、

אִן עַם- שָׂרִים זָהָב לָהֶם הִמְמָלְאִים בְּתֵיהֶם כֶּסֶף: 15  
銀で 家を 満たした 彼らに 金が 首領たちと 共に あるいは  
[H3701](#) [H4390](#) [H1992](#) [H2091](#) [H8269](#)

あるいは、こがねを持ち、しろがねを家に満たした君たちと一緒にいたであろう。

אִן כְּנַפֵּל טָמוּן לֹא אֶהְיֶה כְּעֵלְלִים לֹא- רָאוּ: 16  
見なかった 見なかった 幼子のように 存在が なかったのに 埋められて 流産のように あるいは  
[H7200](#) [H3808](#) [H5768](#) [H1961](#) [H3808](#) [H2934](#) [H5309](#)

אוֹר: 光を  
[H0216](#)

なにゆえ、わたしは人知れずおりの胎児のごとく、光を見ないみどりごのようではなかったのか。

שָׁם רָשָׁעִים חָדְלוּ רָנָו וְשָׁם יָנַחוּ יְנִיעֵי כֹחַ: 17  
力に 与れた-者が 休む そこで 悩ますことを やめる 悪人は そこでは  
[H3019](#) [H5117](#) [H8033](#) [H7267](#) [H2308](#) [H7563](#) [H8033](#)

かしこでは悪人も、あばれることをやめ、うみ疲れた者も、休みを得、

יָחַד אֲסִירִים שְׁאֵנְנוּ לֹא שָׁמְעוּ קוֹל נִגְשׁ׃ 18  
 共に 囚人も 安らぐ ない 聞かない 声を 追い-使う-者の  
[H5065](#) [H8085](#) [H3808](#) [H7599](#) [H0615](#)

捕われ人も共に安らかにおり、追い使う者の声を聞かない。

קָטָן וְגָדוֹל שָׁם הוּא יְעֹבֵד חֶפְשִׁי מֵאֲדֹנָיו 19  
 小さい-者も 大きい-者も そこに いる 僕も 自由である 主人から  
[H0113](#) [H2670](#) [H5650](#) [H1931](#) [H8033](#)

小さい者も大きい者もそこにおり、奴隷も、その主人から解放される。

לָמָּה יִתֵּן לְעַמִּלְ אֹר יְחִיִּים לְמַרִי נַפְשׁ׃ 20  
 なぜ 与えるのか 苦しむ-者に 光を また-命を 苦い-思いの 魂に  
[H5315](#) [H4751](#) [H0216](#) [H5414](#) [H4100](#)

なにゆえ、悩む者に光を賜い、心の苦しむ者に命を賜ったのか。

הַמְחַכִּים לְמוֹת וְאֵינְנוּ יִתְחַפְּרוּ מִמַּטְמוֹנִים׃ 21  
 待ち-望む-者よ 死を しかし-ない 探し-求める 宝よりも  
[H4301](#) [H2658](#) [H0369](#) [H4194](#) [H2442](#)

このような人は死を望んでも来ない、これを求めることは隠れた宝を掘るよりも、はなはだしい。

הַשִּׂמְחִים אֵלַי גִּיל יְשִׁישׁוּ כִּי יִמְצְאוּ קִבְר׃ 22  
 喜ぶ-者よ 大いに 喜びを 喜ぶ 時に 見つける 墓を  
[H6913](#) [H4672](#) [H7797](#) [H0413](#) [H8055](#)

彼らは墓を見いだすとき、非常に喜び楽しむのだ。

לְגֹבֵר אֲשֶׁר- הָרְפוּ נִסְתְּרָה וַיִּסָּךְ אֱלֹהֵי בִעְרוֹ׃ 23  
 人にとって その 道が 隠されている 困っている 神が 彼の-周りを  
[H1157](#) [H0433](#) [H5641](#) [H1870](#) [H1397](#)

なにゆえ、その道の隠された人に、神が、まがきをめぐらされた人に、光を賜われるのか。

כִּי- לִפְנֵי לַחֲמִי אֲנַחְתִּי תָבֵא וַיִּתְכוּ כַּמַּיִם שְׁאֲנַתִּי׃ 24  
 なぜなら 前に 食事の 嘆きが 来る 注ぎ-出される 水のように 私の-叫びが  
[H7581](#) [H4325](#) [H5413](#) [H0935](#) [H0585](#) [H3899](#) [H6440](#)

わたしの嘆きはわが食物に代って来り、わたしのうめきは水のように流れ出る。

כִּי פָחַד פָּחַדְתִּי וַיָּאֲתַנִּי וְאֲשֶׁר יִגְרַתִּי יָבֵא לִי׃ 25  
 なぜなら 恐れを 恐れた それが-来た おびえた 来た 私に  
[H0935](#) [H3025](#) [H0857](#) [H6342](#) [H6343](#)

わたしの恐れるものが、わたしに臨み、わたしの恐れおののくものが、わが身に及ぶ。

לֹא וּשְׁלוֹתַי וְלֹא שְׁקֵטַתִּי וְלֹא- נַחְתִּי וַיָּבֵא רָגְזִי׃ 26  
 なかった 安らぎは なかった 静けさも なかった 休みも 来た 悩みが  
[H7267](#) [H0935](#) [H5117](#) [H3808](#) [H8252](#) [H3808](#) [H7951](#) [H3808](#)

わたしは安らかでなく、またおだやかでない。わたしは休みを得ない、ただ悩みのみが来る」。